

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202460		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた		
所在地	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号		
自己評価作成日	令和4年1月4日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念「誇り、責任、感謝」を念頭に置き、グループホームの基本理念「感謝の心を忘れずにやさしい手と確かな手で共に歩みます」の言葉を一つ一つ理解し、入居者目線で日々サービスの提供に努めています。母体の村上医院の協力があり、医療と介護の連携が入居者様とご家族の安心に繋がっていると思います。現在、コロナ禍で生活の面でも制限される中で、グループホーム内でもできる楽しみを皆で話し合い、職員自らも楽しみながら企画をし、グループホームでの生活の良き思い出となるように、入居者様の表情のひとつひとつを動画や写真に残してご家族と共有できるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する当ホームは母体医療機関と隣接し、在宅診療部の看護師が定期的に訪れ重度化した入居者に対応するなど手厚い体制となっている。更に、居宅支援事業所、デイサービス事業所、通所リハビリテーション事業所もあり、地域での医療・介護サービス提供の一翼を担っている。令和2年度には職員間で話し合いを重ね、理念を再確認するとともに、職員は入居者の人生の最期に関わることを深く認識し、入居者や家族の安心感に繋がるよう取り組んでいる。ホームには介護福祉を専攻する短大生の実習受け入れや、認知症サポーター養成講座を実施するなど地域貢献にも積極的に取り組まれており、今後も地域でのより質の高い医療・介護の提供に期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務のマンネリ化の解消及び職員のスキルアップを目指すために、令和2年度に職員間で何度も話し合いの場を持ち、基本理念の意味や意義を皆で再確認した。新任職員にも入社時に説明し、実践を通して理念に立ち返り再度説明をしながら理解してもらっている。	開設当時の理念に込められた一つひとつの言葉を理解する為に、職員全員でグループワークを行い、理念を再確認するとともに、理念を誰もが目に付く場所に掲示して全職員へ意識付けを行っている。令和3年度は「ゆっくりしていねい」をホームの目標とし、毎月のフロア会議で共有し、また、年度末には職員アンケートを通じて実践状況を振り返り、次年度の個人目標設定に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域との実際的な交流機会は激減したが、職員は近隣の方々と日常的に挨拶を交わすなど、その関係性は保たれている。	併設しているデイサービス事業所の利用者などが認知症カフェに参加する等、地域と交流している。母体病院の院長が地域の自治会に加入しており、地区老人会のゲーム大会へ協賛している。大学の地域共生学科介護福祉コースより実習生の受入れも行っており、職員採用にも繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、介護系短期大学の学生の実習を受け入れ、認知症ケア、介護技術、介護の楽しさなどを伝え、少しでも介護に興味関心を高めてもらえるよう、介護人材育成にも力を入れている。管理者が認知症サポーター養成講座の依頼を受け、ビジネス専門学校へ出向き講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、書面開催形式で行っている。会議のレジュメの中に、入居者の生活感が観られないとの施設長からの指摘があり、これを機に月毎の行事を改めて見直し、できる範囲で計画的に実践することで、入居者の生活の中に少しずつ楽しい時間が増えてきている。	運営推進会議の構成メンバーは、行政職員、自治会元役員、老人会会長、有識者、家族代表、各ユニット職員で、現在は書面会議により開催し、行政の窓口には会議録を持参し、他の構成メンバーとは施設長が個別に意見交換している。運営推進会議は入居者状況、活動報告、事故報告、職員配置状況及び身体拘束委員会について諮り、挙がった意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が窓口になり、行政担当者との連絡調整を行っている。また市のグループホーム連絡協議会の役員を担っている関係で、必要に応じて行政への要望等を団体として伝えたりしている。	佐世保市長寿社会課のコロナ対策室担当者とコロナ対応に関する情報を交換したり、ホームの実情を相談するなど行政との協力関係を築きながら臨機応変に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体でコンプライアンスルールを掲げて実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、同意書兼計画書を基に入居者及び家族に説明し同意を得るようにしている。また運営推進会議でケースの検討や報告、現場でのスピーチロックのような課題を取り上げるなど、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議と同時に開催している。ホームは身体拘束適正化のための指針を作成するとともに、現場で身体的拘束が必要と考えられる事態が発生した場合の身体的拘束廃止までの流れをフローチャート形式にして明示している。毎月のフロア会議で、ホームで発生したヒヤリハットについて検討し職員の意識づけに活かしている。夜間時のセンサー使用は事前に行政窓口にも相談し、適切な使用方法に努めている。各ユニットのフロアにはコンプライアンスルールを掲示し周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットのフロアにコンプライアンスルールを掲示し、職員だけでなく家族や外部の方に対してもそれらを示しながら入居者の生活支援に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に後見人制度を利用されている方がいて、権利擁護の関する制度を知る機会とはなったが、未だ知識としては乏しいのが現状で、今後学ぶ機会を設けるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は主に管理者が行っており、時間をかけて説明し理解を頂いている。また制度の改定の際は管理者より職員に説明があり、全員がその内容を理解した上で、家族に対し職員が文書による説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会の際は、感染予防の面で事前に電話連絡を頂けるため、事前に入居者に関する報告内容や相談事などを職員間で確認し伝達するようにしている。またタブレットで動画や写真を記録として残し、それらを家族に観て頂きながら意見交換もできている。	コロナ禍でホームでの入居者との面会は難しい為、事前予約制による面会の機会を設けている。エレベーターホールには入居者の日頃の生活振りや行事写真を掲示し、来所した家族からも好評を得ている。タブレットには行事写真や入居者の写真・動画を保存し、今後LINEの活用も視野に検討している。	家族からの質問に対して職員が個別に回答されているが、外部評価を通じて家族より、食事の献立、物品購入のタイミング、入浴の回数といったことの不明点等が挙げられており、引き続き丁寧な説明を行うとともに、例えば「お便り」を通じてホームの取り組みや対応方法を家族へ周知したりアンケート調査を活用するなど今後の組織的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より管理者が窓口となり、現場の意見を主任がとりまとめ反映できるよう努めてもらっている。また理事長(院長)も施設に往診に来られた際に、気軽に声をかけて下さり職員のモチベーションにもなっている。	新人職員の育成方法について、全職員で話し、指導方針の一本化に向け、主任を通じて、施設長及び院長から助言を得ながら、職員の協力体制のもとで組織的に研修を行っている。定期的に院長による往診があり、職員にも気軽に声をかけてもらうことで職員のモチベーション向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良や家庭の事情により勤務が難しい場合など、柔軟に判断対応をしてもらい助かっている。また業務改善に向けて職員間で協議した際も、理事長と管理者の助言をもらいながら、業務マニュアルを見直し、結果、業務の効率化に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場に即した研修をその都度管理者から提示され、コロナ禍で外部参加が困難ではあるが、資料を取り寄せたり、動画で内容を紹介されたりと、学ぶ機会を与えてもらっている。また、事故報告書を基に会議でケース検討会を随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡協議会の東部ブロックの研修等の機会も激減する中、昨年末に会議で集まる機会を得て、久しぶりに馴染みの顔ぶれ達との意見交換で力を頂けた気がする。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	感染予防対策により事前訪問が難しいため、担当のケアマネジャーから電話による情報を得たり、家族からの電話による聞き取りを行ったりして、少しでも本人が安心できる環境を整えるべく関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報を基に契約時に改めて家族の思いや意見などを聞き取り、入居者がスムーズに入居され生活面に反映できるよう努めている。普段から全職員が、家族とのコミュニケーションを意識し良い関係の下で入居者の生活がサポートできるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活歴や習慣、し好などの情報や日々の様子、表情や態度、本人のサイン等を照らし合わせながら「その時」に適切な対応ができるように職員間で申し送りをし、記録や会議等を通して本人に関する情報を共有し、個別ケアの提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で個々の状態に合わせて食器洗いのお手伝いをして頂き、本人にとっても「私の役割、仕事」として捉えてもらい、共同で生活している実感がある。時として馴れ合い的にならないよう、言葉遣いや態度など日頃から気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の生活の様子を分かり易く伝えたり、タブレットを用いて動画や日常の写真などを観てもらっている。健康状態の変化についても適宜、電話で説明をし、来訪時に再度家族の意見や思いを聞き取るなど、共に支え合う関係を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の拡大に伴い、面会禁止で家族や馴染みの方との関わりが一時期途絶えた時もあったが、携帯電話で連絡を取り合ったり、手紙で近況を伝えたり、併設のデイを姉妹が利用されている方は利用日に合わせた面会を楽しみにされるなど、それぞれの関係が継続できるように配慮している。	入居時に入居者のこれまでの生活歴や関係性などの各種情報を得るとともに、入居後に把握した情報も業務日誌に記載している。入居者支援に必要な情報は個人記録に残し職員間で共有している。コロナ禍以前は在宅からの継続で家族の支援により馴染みのマッサージ治療院へ定期的に通われる方もいた。尚、院長の許可の下、コロナ感染状況に応じて、外出、外泊ができるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	コロナ感染症予防対策でテーブルと座席の位 置も空間を開けての配置を心がけているが、 「自分の場所」としてそれぞれが認識をされ、 互いに笑顔で挨拶を交わしたり、いつの間 にか会話が弾んでいたりする光景が日常で観ら れる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当院に入院後、病状により退居された方に対 しては病棟の看護師に状況を尋ねたり、家族 に伝言を頼むなどして今まで通りの関係を意 識している。外出先ですでに退居された方 の家族に会うこともあり、互いに近況報告がで きる関係性が逆にありがたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者一人一人とコミュニケーションをとり、 本人の要望や訴えを把握して速やかに対応 ができるように職員、家族で日々共有し実践 していく。そしてその結果をまた共有して次に 繋げていくことを心がけている。	意向の表出が難しい入居者に対しては、家族より 情報を聞き取るとともに、職員が本人へ声掛けし た際に反応した言葉や表情を本人本位に検討し ている。入居後に表出した入居者の意向と、入居 前に家族が認識していた入居者の意向の差異に 対し、職員と家族が話し合い、入居者の深い思いや りに気づかされた事例もあり、入居者本人を中心 にした支援を実現していることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	事前の見学の際や契約時に、本人のこれま での生活の様子や課題等を聞き取り確認を すると共に、入居前の担当ケアマネジャーか らの情報や主治医からの診療情報提供書等 を基に、総合的にその方の状態像を把握す るよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活チェック表を基に健康状態を把握 し、朝と夕方の申し送りで状態に関するこ と、生活面での気づきなどを記録に残し、その 時々々に適切なサービスが提供できるように努 めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前検討用紙や担当者会議で意見を集約し、担当者を中心に家族からも意向等を確認した上で、実現可能な介護計画を立てるよう心がけている。	介護計画の作成前に、入居者、家族の意向を把握し、全職員が事前検討用紙に検討内容を記入後、ケア会議を行い定期的な見直しに繋げている。介護計画の見直し・変更が必要になった場合は現状に即して随時行っている。介護計画は時間軸の日課計画表に反映し、介護計画の実施状況を分りやすく記録に残せるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌には個々の生活ぶりや職員間で共有すべき事項等を記載し、申し送りで確認をして実践をしている。その中での気づきを見落とすことがないように日々の申し送りで共有しながら状況に応じては計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員不足で体制が整わない時は、3Fユニットや管理者の協力を得ながら柔軟に対応してきた。コロナ禍で制限がある中でも、当院と併設事業所からの連携協力も伴って、介護サービスの提供を維持していくために日々取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	短期大学生の施設実習は学校側と感染対策を徹底して行ったが、実習生との関わりを通して入居者の生活面に良い刺激を与えてもらった。また面会実現に向け地元の業者に相談して、エレベーターホールの引き戸のすりガラスを透明の強化ガラスに取り換え、対面式面会が可能となる等、入居者の暮らしの活性化のために支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の意向により当院となっており、当院との連携の下でいつでも安心して医療を受けられるように支援している。他の医療機関を受診する場合は、事前に入居者に関する情報を家族に書面で伝達したり、職員が同行して対応をしている。	本人や家族から要望があれば従来のかかりつけ医を継続受診することが可能であるが、現在は入居者全員が母体医療機関を主治医としている。2週間に一度、定期受診を行っていたが、現在、コロナ禍により月に一度、往診が行われている。専門医療機関への受診に家族が同行される場合は、ホームより入居者情報を家族へ伝えて円滑な受診に繋げている。必要に応じ歯科の往診も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当院の外来担当、在宅診療部担当の看護師と施設側と連携を取りながら、日頃の入居者の状態の把握に努めており、いつでも適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的に面会に行き、病棟の看護師から本人の様子を伺ったり、退院に向けては病院関係者、家族、管理者で情報交換をしながら受入れ体制を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に予め看取り介護の指針の説明を行っているが、実際に重度化された際は、主治医より家族に病状や今後の看取りについて説明をされ(施設側も同席)、家族の意向を確認した上で改めて施設側より看取り介護の説明を行い同意を得るようにしている。	入居契約時に重要事項説明書とともに看取りに関する指針を家族及び入居者へ説明している。終末期の判断は医学的知見に基づき主治医が行い、家族へ説明し同意を得て終末期の入居者支援に取り組んでいる。看取りの際には看取り介護に関する介護計画を作成した上で支援を行っている。ホームでは入居者が最期を迎えるにあたり、家族の要望に応じて宿泊ができる部屋を準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備えマニュアルを作成しているが、実際に経験した職員であっても当事者となった場合の不安はある。昨年3Fユニットの事故報告書を基に勉強会を行いマニュアルの見直しを行った。現在、喀痰吸引等研修を受講中の職員もいて知識を高め実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日終業時には担当者が火気点検を行い(併設事業所も同様)、防火設備点検は年2回実施。昨年、新任職員を中心に村上医院と合同で夜間火災発生時の想定にて訓練を行い、初期消火までの動き、避難誘導までの連携等を検証した。また下水道切替工事に合わせて、生活用水(排水も含む)が使えない非常時を想定した訓練も行った。	ホームに併設する関連事業所も含め、法人全体で避難訓練を実施している。訓練実施の際は写真を撮り、記録に残している。昨年11月には断水を想定した災害訓練を実施し、備蓄の不備など、訓練実施後の課題点を全職員で検証している。今後、入居者と合同の避難訓練が望まれる。現在、BCP(業務継続計画)に関し法人全体で作成にとりかかっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴や習慣、し好などを理解把握した上で、その時の表情や態度、思いに対して適切で分かり易い声かけをするように心がけている。また周囲との関係で本人が不利とならないように、互いの立場を尊重し、言葉かけも配慮しながら対応している。	職員は排泄時の誘導の声掛けや排泄失敗時の羞恥心に配慮した支援等、入居者を尊重した支援に努めている。居室の捉え方を入居者の自宅であるという認識で捉え、居室への入室時にはノックと声かけにてプライバシーにも配慮しながら行っている。居室で夜間帯のみ使用するポータブルトイレは、日中に消毒しバルコニーへ移動し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや要望等をくみ取り、それを職員間で共有したり、状況によっては家族の協力を得るなど、入居者の自主性を重んじた対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはなるべく崩さずに、個々の体調や気分などを考慮し、本人と確認を取りながら本人のペースに合わせて支援をしている。行事ごとや職員の体制の都合で日課に変更が生じる場合は、早めに入居者に伝え理解を得るなど、混乱を招かないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時は髪を整え、衣服もその日の天候を考慮しながら本人に選んでもらっている。衣替えの時期には家族に依頼して自宅から持ってこられたり新調されたりと、普段から身だしなみを意識してもらうよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者から毎日食材を取り寄せ、旬の食べ物やご当地グルメなど工夫を凝らした献立と味も好評。本人が食べたい物を家族に依頼をして、毎回それを楽しみにしている方もいる。月2回、手作りおやつを企画し、入居者と一緒に作ったりしている。食後は食器洗いやお盆(トレイ)拭き、テーブル拭きを一緒に行うのが日課となっている。	ホームでは外部業者に委託し食材を取り寄せている。入居者に応じてミキサー食や刻み食に対応している。アレルギーがある方には別献立による注文ができるよう配慮している。食器類は本人の能力に応じた物を提供している。季節毎の行事にはおやつ作り、ぼた餅の館詰め、果物のカットを行うなど、職員と入居者が楽しみながら一緒に調理している。コロナ感染症対策により食事の際は入居者同士が間隔をとり、対面にならないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の飲水量をチェックし確実に飲んでもらうようにしている。水分をあまり摂りたがらない方がいて、その方には1回の引水量を少なく、コップも小さめにして提供回数を増やすなどの対応をしている。食欲が低下気味の方には見た目が多く見えないよう器を小さめにしたし、ワンプレートにおにぎりをのせて提供するなど、栄養・水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、必ず洗面コーナーへ誘導し個々に応じて準備や介助や見守りを行い支援している。歯科受診の対象の方は、本人と家族の同意を得て訪問歯科に依頼し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食前後にトイレ誘導と介助を行っているが、入居者の表情やサインをくみ取り、自尊心を気づけられないように早めの対応及びさり気ない対応を心掛けている。排泄動作が自立している方の排便後の確認がどうしても曖昧になるため、自室のカレンダーにマル印をつけてもらうようお願いしている。	ホームでは排泄チェックリストを用いて入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレでの排泄に努めている。夜間帯は入居者の状態に応じてポータブルトイレを使用し、パッド交換等、排泄を支援している。ホームではおむつやパッドの使用状況を検討し、家族への金銭的負担にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれに処方された下剤の内容や服用の仕方が違うので、朝・夕の申し送りで必ず確認している。その他、飲水量の確保や1日2回の体操、食事量の把握、陰部洗浄、腹部マッサージ等を通して便秘予防に努めている。排便状況によっては当院へ報告し下剤の調整をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表を基に入居者の体調や入浴前の状態、本人の意向、その他タイミングを観ながら入浴を提供している。当日入浴ができなかった方には翌日に変更したり、身体を清拭するなど柔軟に対応している。職員が富士山の絵を描いて浴室を銭湯っぽく演出し、入浴剤も何種類かに分けて提供し好評だった。	入居者本人より要望があれば毎日でも入浴ができるよう準備している。入居者には最低でも週2回入浴できるよう支援している。入居者が入浴拒否、体調不良の場合は翌日に入浴することも可能である。銭湯の日を設定し、浴室入り口には手作りの立て看板を設置するなど入浴することを楽しくするよう工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状況やその日の体調に合わせてベッドやソファでの休養を促している。昼食後も午睡を促し、午後からの活動に支障をきたさない範囲で休んでもらっている。毎日、居室の清掃や離床後のベッドのシーツを整えたりして、いつも快適に過ごして頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、個々の薬紙に入居者の顔写真を貼り、専用のファイルに管理している。服用前にファイルを見ながら職員2名で薬数、日付、名前に間違いがないかを指差し呼称で確認し、直前に本人に再度確認を取り服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活において本人に合った役割や作業を職員と共同で行い、個性が発揮できるような場面づくりを心掛けている。また毎月無理のない範囲で行事を企画し生活の中に楽しみを持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援ができない中、バルコニーで日光浴をしたり、洗濯物を一緒に干したりするなど気分転換を図っている。感染状況にもよるが、家族も感染対策に十分留意しながら、耳鼻科の定期受診に合わせ、可能な範囲で自宅への外出や外泊をされたりしている。	コロナ禍により遠出の外出は行われていない。現在、近隣への散歩や、ホームのバルコニーでの日向ぼっこ等を通して外気浴を行い、入居者の気分転換を図っている。コロナが終息した後は歩行が可能な入居者と一緒に避難場所でもある近くの公園へ花見に行くことを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の個々の預かり金を施設で管理しており、残高が少なくなると家族に依頼をして、入金時に個人出納帳で確認をして頂いた上で署名をもらう。現在のところ、直接入居者がお金を取り扱う場面はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親族等から電話がかかった時は職員が取り次ぎ本人と代わる場合もあれば、電話の相手や話の内容理解が伴わない方には職員が代弁することもある。その際、電話の後に本人に内容を分かり易く伝えるようにしている。手紙が届いた際も代読したり代筆するなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の整理整頓、清掃、消毒は毎日行い、フロアのトイレ(4か所)は個々の心身レベルに合わせて使い分けている。食卓の席の配置は一定の距離を置き、対面を避けるレイアウトに変更した。フロアと居室には温度計や加湿器を配置し、室内の換気もこまめに行うなど、空調管理と感染対策を徹底している。	次亜塩素酸水を使用し、フロアや廊下、手摺等を定期的に、また、毎食後や職員が気づいた時点で適宜清掃を行い、感染防止と清潔保持に努めている。エアコンの風が直接入居者の体に当たらないよう工夫し、換気扇、空気清浄機、窓の開閉等、換気対策にも留意しながら居心地よく過ごせる共用空間づくりに取り組んでいる。昼の間では入居者が洗濯物をたたむなど家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつもの座席が定位置となり「自分の居場所」として各自が認識をされている。普段と変わらないこの光景と顔ぶれが安心感をもたらしてくれている。ある入居者が、「隣りの人とはあまり会話を交わすことはないが、いなければいけないで寂しい。」と話され、互いに支え合う関係が居心地の良い場所をもたらしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトは入居前の情報や入居時の聞き取りを基に、本人と家族とも協議しながら決めていく。また状態の変化に応じて電動ギャッジベッドに替える等、柔軟に対応している。	居室は本人が落ち着いて自分らしく生活できるよう馴染みの物のほか、テレビや家族の写真等、思いおもいに持ち込まれている。乾燥対策として、居室で加湿器を使用したり、安全面に配慮して水を入れた洗面器の設置や濡れタオルを置く等、入居者が居室で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の業務や申し送り、記録などを基に、個々の状態像を職員全員が把握し、本人の意向も確認しながら、場面ごとに残存能力を活かせるように工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

3階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度(令和2年)に基本理念の言葉一つ一つを理解し実行するため、内部研修で話し合う機会を持ち、施設の現状を踏まえ理念の見直しと再確認を行った。いつでも観ることができるように掲示し実践できるよう日々心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、イベントを通じた地域との交流の機会は持てなかったが、当院へ入居者と外来受診する際、地元の方や顔なじみの患者様と挨拶を交わしているが、当り前の光景でも職員としては嬉しい瞬間でもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	この2年間、中学校、高校からの職場体験や市委託の介護教室は感染予防のため実施していないが短大学生の介護実習を受け入れ、認知症の方々への支援の在り方などを指導させて頂いた。また管理者がビジネス専門学校からの依頼で、認知症サポーター養成講座で講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の直接開催は控え書面での会議報告という形で行っている。具体的な意見や提案を受けるとは殆どないが、定期的に報告することで日々の活動の振り返り、業務内容の点検、見直しにつながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定に関することやケアに関する相談、グループホーム協議会との連携も含めて、管理者が中心となり市との連携を取りながら協力関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料を基に、フロアー会議や全体会議で意見交換をしたり、運営推進会議内の身体拘束等適正化委員会では毎回テーマに沿って協議、確認をし、ケアの実践につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンスルールを職員の目の届くところに掲示をし、業務にあたって漫然とならぬよう各自振り返りながらその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者の中に金銭管理面を社協の安心サポートセンターを利用している方がおり、担当者の方と関わる中でいろいろと学ぶ機会を得て理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は主に管理者が行っているが、家族等からの疑問や相談などがあつた時や改定時に内容を説明をすることがあるため、全職員がきちんと説明できるよう契約書や重要事項説明書にも目を通しいつでも対応ができるように準備はしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染対策等による制限下で、ご家族と直接話す時間も限られてはいるが、入居者の近況や月毎のイベントの写真等を掲示して、入居者の日頃の表情を分かりやすく伝えられるように心がけている。また電話連絡の際にも報告以外に、意見・要望等がないか必ず尋ねるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の悩みや相談を主任を通して理事長や管理者へ話し、いろんな意見やアドバイス・提案をもらうことができている。現在取り組んでいる事案についても経過を伝えながら、その都度解決への道標を作り出してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人不足のため業務がスムーズに回らないこともあり業務の見直しを行った。その中で当院(村上医院)受診時の人員不足も課題となっていたが、院長や看護師が直接施設へ足を運ぶなど柔軟な連携協力を得て職員のモチベーションに繋がっている。現在では職員体制も整い、引き続き職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者の重度化に伴い、当法人が県に喀痰吸引等研修機関としての登録を行い、喀痰吸引等の研修に参加し、学ぶ機会を作り出して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡協議会東部ブロックの施設交流も新型コロナの影響で開催が制限され、年内は12月に一度会議があったのみ。日頃から必要に応じて情報交換は行っており、会議でも現状報告や意見交換を行い、引き続き相互のサービスの質向上を意識した関係作りの重要性を確認した。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年から今年にかけて入居者の入れ替わりが続き、入居者のインテークや要望、課題などの聞き取りが十分にできなかった点は否めず、入居者の生活上の安心よりも、管理上の安全面を優先した介護を提供していたのかもしれない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談の時間が持たず関わり方において不十分な点もあったかもしれないが、関係機関からの事前情報を基に必要に応じて担当者に電話で再確認をしたり、家族へ電話で聞き取りを行うなど、スムーズに入居できる体制と関係作りに心がけて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	感染対策による制限のため事前の面談での情報収集や関係作りが十分にできず後手の対応になってしまった面もあったかもしれないが、日常生活の中で本人の訴えや表情、動きなどのサインをくみ取って、その時に必要な支援を細やかに提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者個々に合う何らかの役割を持ってもらい、職員も含めて互いに協力し助け合える信頼関係の構築を目指して日頃から努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防対策のため家族参加の行事等は実施できず、面会制限もある中で大変不便をかけている状況である。限られた面会時間であっても、入居者と家族の触れ合いは何よりも代えがたいもの。こまめに本人の近況報告を行い、家族と共に支え合えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会の制限はあるが、その分、電話や手紙でのコミュニケーションを取りながら関係性の継続を意識して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性が合わない人もいれば、言動によっては不利な立場に置かれる方もいらっしゃるの で、声掛けして誘導する順番や座席などを考 慮しながら、互いを認識できて分かり易く関わ りが持てるように対応を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のご家族と外でお会いす ることもあり、互いに近況報告をすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々入居者1人1人と関わる中で、自身で表 現できる方はもとより、それができない方への 思いを推し量るべく、普段の生活の様子や本 人の歴史や習慣、家族からの話等を勘案しな がら生活に反映できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	衣類の着こなし一つをとってもそれぞれのスタ イルがあり、本人や家族からの情報を収集 し、個々の過ごし方を尊重しながらサービス が実践ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活シート、サービス計画書に 個々の状態を毎日記録して現状把握をしてい る。活動が画一的にならないように他者と一 緒に過ごす時間もあれば、一人で自室で横に なって過ごす時間もあり、面々がそれぞれの リズムで過ごして頂けるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題や支援の在り方、介護の標準化、統一すべき事項等があれば、申し送りや会議等で確認し検討している。面会時には家族に近況報告を行い、要望や意見があれば介護計画に活かすようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを個別の記録に残しているが、情報の共有ができていない時は、結果ケアの統一ができていないことがある。記録のみならず、もっと意識的に口頭で伝え合い、確認をすることでより効果的にケアプランにも反映されると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策のため、併設事業所の職員や利用者とのクロスを避けながらも、互いの情報は常に共有をしている。昨年併設事業所を含めた全館にWi-Fi環境を整え、タブレットを活用して入居者の生活の様子を伝えたり、ユーチューブで懐かしの歌や映画を観るなど、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までは家族と外出したり、馴染みの美容室やマッサージ店等を利用するなど、家族と共に本人の暮らしにメリハリをつけることができていたが、新型コロナの影響もありこの面での支援は途絶えている。地域の方々による演芸ボランティア、交流の機会も今はない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の村上医院との連携の下、日々の健康管理に努めている。他の医療機関を受診する際は、家族に付き添ってもらっているが、経過と現状の報告を口頭やメモで伝達し、スムーズに医療を受けられるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診以外にも、村上医院との医療連携体制により週1回看護師が施設を訪問し、入居者と直接コミュニケーションを取りながら健康状態を確認したり、職員からの相談に応じて適宜対応するなど日常的に支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたら本人の状態や経過、退院の見込み等を随時医療機関の担当者と連絡を取り、家族とも情報共有をしながら、退院時に本人が安心して施設に戻れるように対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合は、院長(理事長)より家族へ説明があり(職員も同席)今後の方針や対応について確認を取っている。施設での対応は看取り介護の指針に基づき改めて家族に説明を行い同意を得て支援をさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に速やかに対応ができるように救急セットを常備しており、週に1回点検を行っている。緊急時の対応での報告書を基に、全職員で勉強会を行いマニュアルの見直しも行った。また、現在職員の数名が喀痰吸引等の研修中でもあり、他の職員にも会議の席で内容を報告し共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練は感染予防対策の観点から、主に初動の訓練を行う他に、管内の消防設備の取り扱い方や出火元を拠点にした避難経路の確認等を朝の申し送り時や会議において行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴、職歴や性格、習慣等を考慮しながら声掛けするようになっている。入居者間で孤立したり不利になりそうな方に対しては、早めに職員が介入し関係の調整を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションをこまめに行い、会話の中でその方の思いや希望が何なのか、ちょっとした変化や気づきがあれば職員間で共有し、できるかがいり自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに合わせて支援しているが、いつも決まった場所で過ごされる方が多く、個々を尊重しながらも職員の業務の都合で入居者の思いをくみ取れていないことも少なからずあると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面での身だしなみで髪を整えたり、それぞれの好みの服で季節を感じる等、日頃から鏡を意識して関わるよう心掛けている。車椅子使用のある方は、毎朝洗面所の鏡の前で必ず立ち上がってから髪を整えられるため、車椅子の位置や安全に立ち上がれるように配慮している。。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の献立はボードに分かり易く書いて案内をしている。外部発注のため、特に盛付けや味付けに関しては特に配慮する必要があるが、食器は個々に合ったもの(大きさや色)を選び、食物は食べ易いように、形態を変えたりトロミの調整等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部発注のため、栄養バランスが取れた食事の提供ができているが、味の好みや心身状態の変化により摂取量が少ない方に対しては味付けを調整したり、補助食を提供したり、また家族に相談して本人の好みのものを持参してもらったりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔を保っている。1人絶飲食の方がいるため、口腔内の状態を観察し痰を取り除いたり、開口して乾燥していることも多いのでその都度湿らせたりするなど適宜対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状態に応じてトイレ誘導、尿取りパットの交換を行っている。夜間はポータブル便器を設置したり排尿量に応じた尿取りパットの種類を検討し失敗を防ぎ安眠につなげるなどの対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前と午後に行う体操では便秘改善も意識しながら他者と楽しく体を動かせるように取り組んでいる。また個別の排泄状況をチェックし、水分補給や乳酸菌を取ってもらったりするなど予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	銭湯の日に因んで1週間で「いい湯で週」とし、浴室前に立て看板を作り、有名な温泉地の入浴剤を日替わりで入れ、BGMに「いい湯だな」を流すなどの演出にもこだわり、少しでも温泉の雰囲気を楽しんでもらえるよう取り組むことができた。いつもと違う雰囲気を入居者だけでなく職員も共に楽しみながら過ごすことができて良かったと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるように、日中はできるだけ動いてもらい、それぞれの体調に合わせて急速の時間や午睡を促し、生活リズムを整えることができるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェックカードで内容や用量等を注意して確認をしている。薬の変更があった時は必ず看護師より説明を受け、職員間で情報を共有している。錠剤をつぶしたり溶かしたり、トロミをつけたり、オブラートに包んだりとその方に合った服薬方法を心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが負担とまらない範囲で、楽しみながら役割として担ってもらっている。職員もさりげなく介入し支援している。現在外出支援はあまりできていないが、毎月「お楽しみ会」の企画を立て、入居者と一緒に楽しむ時間を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため思うような外出支援ができない中で、フロア内を季節を感じられるような飾りつけを入居者と一緒に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理する方はいないが、社協の安心サポートを利用されている方の場合、毎月必要なものを本人と一緒に確認し、社協担当者に伝えお金を準備してもらっている。購入品のレシートを個人の出納帳で管理し、毎月そのコピーを社協担当者に提出している。個々の希望や能力に応じて、家族にも協力してもらいながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居前の独居の時から入居後の現在まで、毎日同じ時間にご家族が本人の携帯に電話をかけられ、お話をされるのが日課となっている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁面に季節ごとの貼り絵などを飾ったり、月毎のお楽しみ会の写真を掲示して四季を感じて頂けるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓コーナー、テレビコーナーが主な共有スペースであるが、その中で座席が定位置となっている方に対しても、その方の状態や周りの状況に応じて場所を移動するなど柔軟に対応している。日中の活動に対しては強要することなく自由な雰囲気作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用品や写真などを居室内に飾り、入居者が居心地良く過ごせるように配慮している。ベッドの位置や家具などのレイアウトは本人と家族の意見を伺いながら決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の「できる」ことを把握し、残存機能を活かせるように個別に支援している。ベッドに移乗バーを設置することで移乗動作が自力で可能となり、トイレ内動作にも応用ができるなど、すぐに「手助け」をするのではなく見守りつつ「できる力」を活かす支援を心掛けている。		